

日韓における謝罪の「定型表現」の使用について

한일 양국어의 사죄의 「정형표현」 사용에 대해서

秦 秀美
Soomi Chin

本稿에서는 한국대역 드라마를 자료로 하여 일본어와 한국어의 사죄의 정형표현이 사용되는 상황에 대해 고찰했다. 그 결과, 양국어 모두 청자에게 구체적인 손해나 피해를 끼치는 상황에서 사죄의 정형표현이 차지하는 비율이 높게 나타났으며, 특히 한국어의 정형표현은 청자에게 구체적인 손해나 피해를 끼치는 상황에서 주로 사용되는 것으로 나타났다. 한편, 일본어의 정형표현은 한국어에 비해 청자의 구체적인 손해나 피해가 없는 상황에서도 사용이 현저한데 그것은 선행연구에서 지적되어 온 상황의 차이에서 기인하는 것만은 아니다. 사죄의 정형표현이 사용되는 양국 공통의 상황에서도 일본어와는 달리 한국어에서는 친소관계가 정형표현의 사용에 적지 않은 영향을 끼치고 있음을 본 고찰을 통해 밝혔다.

キーワード：謝罪表現・定型表現・言語使用・親疎・使用状況

1.はじめに

外国語教育において、謝罪表現の習得は謝罪の決まり文句を覚えておけばいいと考えられがちであるが、その使われ方は一般に思われているほど単純ではない。呉（1991）では、妻を氣遣って食事の支度を申し出た夫に「悪いわね、お願いします」「ごめんね」と声をかける日本人の妻の行動が、韓国人の著者の目には夫婦の間の会話とは思えない他人行儀に映るという逸話が紹介されている。謝罪表現の使い方の違いは、日本人と韓国人の接触場面で、日本人は韓国人に対して「謝罪のことばがあるべきところがない」という不快感を、韓国人は日本人に対して「謝罪のことばを頻繁に言われるけど、どうしてだろう」という不可解な印象を与えかねない。本稿は、このような日韓の謝罪の「定型表現」の使われ方の違いを考察し、異文化間コミュニケーションを考える上での基礎研究とする。

2. 先行研究および本稿における分析の方向

日本語の謝罪の「定型表現」が使われる状況に関する先行研究は、Coulmas (1981)、中田 (1989)、熊取谷 (1988、1990、1993)、Ide (1998) などがあり、実質的な被害や迷惑をかけた場合の正真正銘の謝罪の状況から実質的な被害や迷惑が見当たらない挨拶の状況に至るまで、通常考える謝罪には入りきれない状況の幅を持つことが明らかになっている。具体的に、熊取谷 (1993) では謝罪の「定型表現」が使われる状況を「聞き手にとっての不快状況」と呼び、以下のような連続体として例示している。

連続体としての不快状況



期待に添えないことで聞き手に心理的な迷惑をかける恐れがあるものや依頼で聞き手に負担をかける恐れがあるものは、謝罪の「定型表現」が向けられる offense の存在が比較的明確であると言えるが、エチケットの違反や挨拶では offense がほとんど存在しない場合もある。

では、このような状況を韓国語と比較した場合、両言語にどのような相違が見られるだろうか。生越 (1993) では日本語と韓国語の謝罪について「悪いことを相手にしてしまったり、迷惑をかけたり、勘違い、人の物を借りたり、人に何かを依頼したり、人の期待にそえなかったり、こういった場面で謝罪するのは日韓共通である」(p.34) と述べ、問題になるのは「呼びかけ」「挨拶」「感謝」と分析している。

韓国語では「呼びかけ」や「挨拶」に使える「^{실례합니다} (失礼します)」「^{실례하셨습니다} (失礼します) / ^{실례했습니다} (失礼しました)」などの表現はあるものの、他の呼びかけの表現や挨拶の表現が好まれる。また、木内 (1998) でも述べられているように、お礼を言う時は日本語に比べて、感謝と謝罪の「定型表現」の使い分けの区別が明確であるため、感謝の場面における「謝罪」の定型表現の使用は一般的ではないとされる。

韓国語の「呼びかけ」「挨拶」「感謝」は一般的に日本語に比べて謝罪の「定型表現」が使われないとされる顕著なものとも言えるだろうが、それ以外の日韓共通とされる状況では謝罪の「定型表現」がどのように使用され、それらに人間関係の要因がどのように関係しているかについての検討も必要であると考えられる。

また、上記の図のエチケットの違反については何がエチケットと見なされるか個人または文化によって異なる可能性があり、その内容も広範囲にわたると考えられる。熊取谷ではエチケットの一例として「話への割り込み」を挙げているが、これと関連付けて本稿では「聞き手の領域」との関わりの問題に焦点をしぼり、offense が不明確な場合について考察を試みることに

する。「聞き手の領域」に関わるものとは、聞き手を取り巻く空間、時間、内面、ある状態と関係し、その出入りにあたって謝罪の「定型表現」が使われる場合のことである。また、「領域」という概念は、話し手や聞き手との情報の関係に関わるもの（神尾1990）、聞き手の欲求・願望・意志・感情・感覚などの個人のアイデンティティに関わるもの（鈴木1989）など、考察分野によってその範囲が特定されているが、本稿では「領域」という概念を「個人の空間、時間、心理的なものなどに関わるより大きなもの」と捉え、日本語学の「領域」という概念とは区別する。

以上のことを踏まえ、本稿は、熊取谷の分類を援用し、

- ① 話し手の言動が原因となり、聞き手に物理的な損害、不快感や心労など心理的な迷惑をもたらした場合（以下、「聞き手が被る物理的・心理的な損害や迷惑がある場合」）
- ② 聞き手の期待に添えないもの
- ③ 聞き手の負担に関わるもの
- ④ 聞き手の領域に関わるもの

にわけて謝罪の「定型表現」の使用についてより実証的に考察する。また、表現としてあるのと実際の運用とではどのような違いがあるのかを対照分析する。

3. 資料および資料収集の方法

言語行動を研究の対象とする場合、考察の目的によって適切な資料収集の方法は異なってくる。自然発話は資料の信頼性と客観性が最も高いが、必要とされる状況の収集は簡単なことではない。また、資料に関わっている人間関係などの情報を特定しにくい場合や被験者のプライバシーの問題もある。また、アンケート調査では「謝罪」のように社会的規範と関係のある言語行為の場合、実際の言語運用とは違って規範に望ましいとされる代表的な表現、つまり「定型表現」が回答として選択される恐れもある。

このようなことから本稿では韓国対訳テレビドラマの日本語吹き替え版とその韓国語原語版の映像資料を用いて謝罪の「定型表現」が使われている場面を集め、分析にあたることにした。テレビドラマの台詞、また吹き替え版の台詞は自然な会話とは違いがあり得るという限界があるかもしれないが、本稿で考察の対象とする謝罪の「定型表現」に関しては、ストーリーの展開に不可欠な会話の内容ではなく、会話の流れの中で付随的なものとして表れることが多い。このような付随的なものに操作性は低いと考えられる。

資料は、

- ① 謝罪の「定型表現」が発話される場面をコンテキストがわかるように前後関係を含めて集める。
- ② 比較対照のため、①で集められた例の日本語吹き替え版に対する韓国語原語版、韓国語

原語版に対する日本語吹き替え版の台詞を集める

という順で集めた。その結果、日本語の謝罪の「定型表現」(「申し訳ない」類、「すみません」類、「ごめん」類、「失礼」類、くだけた感じでは「悪い」類)が発話された場面190例、韓国語の「定型表現」(「미안하다」類と「죄송하다」類、「실례하다」類)が発話された場面127例を得ることができた。

同じ日本、韓国でも言語使用は年齢・地域などによって違いがあるだろうが、本稿の考察の目的は同じテレビドラマの資料の分析を中心に日本語と韓国語にある謝罪の「定型表現」の使用の傾向を把握することである。

4. 資料分析と考察

日本語吹き替え版190例、韓国語原語版127例を「聞き手が被る物理的・心理的損害や迷惑」の有無によって分類したのが表1である。()はその出現率である。

表1 謝罪の「定型表現」が使用された例の資料内訳

	日本語吹き替え版	韓国語原語版
「聞き手が被る物理的・心理的損害や迷惑がある場合」	112例 (58.9%)	103例 (81.1%)
「聞き手が被る物理的・心理的損害や迷惑がない場合」	78例 (41.1%)	24例 (18.9%)
合 計	190例 (100.0%)	127例 (100.0%)

日本語も韓国語も謝罪の「定型表現」は「聞き手が被る物理的・心理的損害や迷惑がある場合」の使用が多いことは変わらない。ところが、表1のように韓国語原語版に「定型表現」が使われた例は127例あるが、日本語吹き替え版になると190例に増加し、韓国語原語版に比べて約1.5倍(63例増)となっている。同じテレビドラマにも関わらず、謝罪の「定型表現」が使用されている例は日本語吹き替え版で目立って多いことがわかる。

また、「聞き手が被る物理的・心理的損害や迷惑がない場合」の出現率を見ると、日本語吹き替え版では全体に占める出現率が41.1%に及んでいるのに対し、韓国語原語版では18.9%にとどまっている。韓国語における謝罪の「定型表現」は「聞き手が被る物理的・心理的損害や迷惑がある場合」のみで81.1%に及ぶ出現率を見せていることから「聞き手が被る物理的・心理的損害や迷惑がある場合」の使用が主であると言えよう。

このように同じテレビドラマでも日本語吹き替え版と韓国語原語版の出現率の違いは明らかであるが、これから謝罪の「定型表現」が使用される際の両言語の相違について具体的に考察する。

4-1 「聞き手が被る物理的・心理的な損害や迷惑がある場合」

日本語も韓国語も謝罪の「定型表現」は「聞き手が被る物理的・心理的な損害や迷惑がある場合」での使用が多いことは変わらないが、韓国語では「定型表現」が使われない例が日本語に比べて9例多い。その9例の主な特徴は例(1)(2)のように、親疎関係（身内・親友などが親しい関係であるのに対し、初対面やただの知り合いなどは疎の関係である）では親しい関係の人、「聞き手が被る物理的・心理的な損害や迷惑」の内容の面では程度の軽い場合であった。

(1) 友達との待ち合わせ

상혁 : 많이 기다렸어?

(サンヒョク : ずいぶん待った?)

→ **日本語吹き替え版** : ごめんね。待った?

유진 : 아니.

(ユジン : 全然。)

(冬)

(2) 会社で親しい後輩と先輩の会話

김차장 : 아, 세운그룹에서 또 전화 왔어. 너, 꼭 참석해야 한다구.

(金次長 : おう、セウングループからまた電話で必ず出ろって。)

민형 : 아, 정말 싫다... 알았어요. 가야지요, 뭐.

(ミニョン : あ、本当いやだ... わかりました。行くしかないですね。)

아, 참! 협력업체에 참석하라는 연락은 다 됐어요?

(ミニョン : あ、そうだ。関連業者にも連絡行ってますよね?)

김차장 : 그럼.

(金次長 : もちろん。)

민형 : 폴라리스도요?

(ミニョン : ポラリスにも?)

김차장 : 아, 아휴 깜박했다.

(金次長 : あ、忘れてた。)

민형 : <전화기 누르고 비서에게> 내일 세운그룹 창립기념행사에 꼭 참석해야 된다

고, 폴라리스에 전화 좀 해 줘요. 네.

(ミニョン : <電話で秘書に> ポラリスに連絡して明日のセウングループの創立記念パーティーに出席するようになって。はい。)

김차장 : <검지와 중지으로 오른쪽 관자놀이 윗부분을 두번 두드리며> 깜박했어. 됐지? 간다.

(金次長 : <中指と人差し指で右のコメカミの上の部分軽く二度たたきながら> うっかりしてた。これで大丈夫だよな? それじゃ。)

→ 日本語吹き替え版：すみません。うっかりしてた。それじゃ。

미니ョン：아, 선배!

(미니ョン：〈何かを思い出し金次長を呼び止める〉あ、先輩!) —中略— (冬)

例(1)の「^만이 ^키다 ^리웠어? (ずいぶん待った?)」は聞き手が待っていてくれたことへの気配り表現として解釈することができるが、この表現以外に「ごめん」などにあたる「定型表現」は見られない。

例(2)のミニョンと金次長は親しい後輩と先輩の関係であるが、会社では後輩のミニョンが上司にあたる。場面は書類報告で他の職員がミニョンの部屋を出たあと、ミニョンと金次長が二人で仕事の話が続いている設定となっているが、上司と部下でなく親しい後輩と先輩の関係で打ち解けた会話を進めている。この例の「聞き手が被る物理的・心理的な損害や迷惑」の内容を具体的にみると、金次長はミニョンの指摘により関連業者（ポラリス）に連絡を入れていないことに気がつくが、金次長の台詞では「^깜박^했다 (忘れてた／うっかりしてた)」のみが発話されている。ミニョンから秘書への電話ですぐ事態が収拾できることになり、「聞き手が被る物理的・心理的な損害や迷惑」は程度の軽い内容と判断される。事態の収拾後、金次長の「^깜박^했어 (忘れてた／うっかりしてた)」の発話がくり返されるが、発話とともに「中指と人差し指で右のコメカミの上の部分軽く二度たたく」というジェスチャーが見られる。このジェスチャーは、韓国では自分の失敗に対する「頭悪い、バカ、ボケ」などの自責のジェスチャーとして捉えることができ、相手に申し訳ないという気持ちを表しているように考えられる。

このように韓国語原語版で謝罪の「定型表現」が見られない場合でも日本語吹き替え版では例(1)は「ごめんね。待った?」、例(2)の最後の「^깜박^했어」は「すみません。うっかりしてた」となっている。日本語では親しい関係でも「聞き手が被る物理的・心理的な損害や迷惑」の内容の程度に関係なく、「ごめん」や「すみません」などの「定型表現」でまず謝罪をし、その後気配り表現や自責の表現をするという特徴が読み取れる。この場合、日本語では謝罪の「定型表現」が第一発話の存在として重要な意味を持つように考えられる。

4-2 「聞き手が被る物理的・心理的な損害や迷惑がない場合」

4-1では「聞き手が被る物理的・心理的な損害や迷惑がある場合」について考察し、その内容と親疎関係による使われ方の違いを述べた。次に、「聞き手が被る物理的・心理的な損害や迷惑がない場合」の資料内訳をみてみよう。

「聞き手が被る物理的・心理的な損害や迷惑がない場合」の例は日本語吹き替え版78例に対し韓国語原語版は24例で、日本語の方が3倍以上多く、表2のように幅広く使われていることがわかる。また、生越で述べられている「挨拶」「感謝」「呼びかけ」の違いだけでなく、「割り込み及び一時的な離脱」においても日本語吹き替え版の出現数は韓国語原語版より著しく多いこと

がわかる。

表2 「聞き手が被る物理的・心理的な損害や迷惑がない場合」の資料内訳

		日本語	韓国語
「聞き手の期待に添えないもの」		12例 (15.4%)	10例 (41.7%)
「聞き手の負担」に関わるもの	依頼	6例 (7.7%)	3例 (12.5%)
	感謝	10例 (12.8%)	0例 (0%)
「聞き手の領域」に関わるもの	入室、退室、別れの時の挨拶	20例 (25.6%)	2例 (8.3%)
	呼びかけ	7例 (9.0%)	1例 (4.2%)
	割り込み及び一時的な離脱	22例 (28.2%)	8例 (33.3%)
	共有空間の形成にあたっての「気遣い」	1例 (1.3%)	0例 (0%)
合 計		78例 (100%)	24例 (100%)

ここでは、「聞き手が被る物理的・心理的な損害や迷惑がない場合」について順に沿って具体的に考察する。

4-2-1 聞き手の期待に添えないもの

聞き手からの要求、依頼、提案の「受け入れ」は聞き手にとって望ましいとされる返事であるのに対し、聞き手の期待に添えない「断り」の場合は聞き手への心理的な迷惑などを想定することができる点で謝罪の「定型表現」は「聞き手が被る物理的・心理的な損害や迷惑がある場合」の使い方に近いものと把握される。この例は日本語12例、韓国語10例あり、両言語の違いを特定することは難しいが、韓国語で謝罪の「定型表現」が見られないのは例(3)のような場合である。

(3) 友達からキャンプに行く誘いに対して

상혁 : 토요일날 크리스마스기도 하고 우리 다같이 놀러 가기로 했어. 갈 수 있지?
(サンヒョク : 今度の土曜、クリスマスだし、みんなで山小屋にキャンプに行くことにしたよ。行けるだろ?)

유진 : 어찌지... 나 안 될 것 같은데...
(ユジン : どうしよう...。私、だめだと思うけど...。)

→ 日本語吹き替え版 : ごめん。私、たぶん行けないと思う。

친구들 : 아우, 야-!

(友達 : えー。)

유진 : 저기... 다른 약속이 있어.

(ユジン : あの一、他の約束があるの。)

—中略— (冬)

韓国語の「^{오뚜기}찌지／^{오뚜기}떡하지 (どうしよう)」は日本語吹き替え版で「ごめんね」に置き換えられているが、韓国語では親しい関係で相手の誘いに対する「断り」の発話に「^{오뚜기}찌지／^{오뚜기}떡하지」が比較的頻繁に使用される。「断り」の前兆とも言えるだろうが、相手の誘いに対して、「あいにく都合が悪い」ことを明確に言わず、「^{오뚜기}찌지／^{오뚜기}떡하지」という表現で困っていることを表すのである。

これに対して、直訳の「どうしよう」という日本語は文字どおり迷っている意味であり、聞き手の期待に添えないということを表すには十分な表現ではないと考えられる。尾崎 (2006) は日本語の「断り」に表れる謝罪について、相手との関係がすでに形成されている場合や引き受ける必然性がある場合は謝罪の出現率が高くなり、相手への配慮として機能していると述べている。このようなことから例(3)の親しい関係の誘いに対する「断り」の状況においても、日本語では謝罪の「定型表現」が聞き手の期待に添えないことに対するより適切な表現として選択されているように考えられる。

4-2-2 聞き手の負担に関わるもの

ここでは「聞き手の負担」をキーワードにして「依頼」と「感謝」について考察する。「依頼」は聞き手に物理的または心理的な負担をかけることであり、謝罪の「定型表現」は聞き手に負担をかけることに向けられる。そのため、「聞き手が被る物理的・心理的な損害や迷惑がある場合」の使い方に近いものと把握される。「依頼」の例は日本語6例、韓国語3例あり、以下は両言語の相違点が窺える興味深い例である。

- (4) 先輩と自販機のコーヒーを飲んでいたら、途中で急いでその場を離れるサンヒョク

상혁: 이거 줘… 〈自分のコーヒーカップを渡しながら〉

(サンヒョク: これちょっと…)

→ **日本語吹き替え版**: じゃ、すみません。 (冬)

例(4)は親しい先輩との会話である。二人は会社の屋上で紙カップのコーヒーを飲んでいたら、飲みかけのカップを先輩に捨ててくれるよう台詞と台詞の合間にわずかに現れる発話場面である。韓国語では後輩のサンヒョックが急いでいることもあって「^{이거} 줘… (これちょっと…)」で最後まで発話されないまま先輩にカップを渡すという行動に移っている。これに対し、ごくささいなこととして描かれているこの例においても日本語では明確に「すみません」の発話があるべきところとして把握されている。

韓国語では先輩でも、親しいこと、ささいなことであることが重要で、気軽に頼める、または頼まれるという関係が優先され、謝罪の「定型表現」は特に必要とされないと言えよう。これに対し、日本語では小さな依頼でも「依頼」である以上は「聞き手の負担」の発生を不可避なものと把握し、謝罪の「定型表現」が必要とされる。そのため、例(4)では親しくても小さな

依頼でも先輩に「これちょっと…」という直訳の発話は避けるべきで、「すみません」のほうがより適切であるように考えられる。

次に、このような「依頼」の状況における「聞き手の負担」を「感謝」のときの「すみません」の使用と関連付けて考えてみる。日本語では「依頼」の段階でのみ「聞き手の負担」を気遣う言語表現をするのではなく、「依頼」が受け入れられた後にも「聞き手の負担」の発生を気遣う言語表現をすることがある。「依頼」をすることによって生じた「聞き手の負担」をどこまで気遣うかがその後の感謝や謝罪表現の表れに影響すると考えられる。

(5) バスの降りる駅を過ぎてしまったことに気づいたユジン

유진: 아저씨! 아저씨! <버스에서 내리면서> 감사합니다!

(ユジン: おじさん! おじさん! <バスを降りながら> ありがとうございます。)

→ **日本語吹き替え版**: あ、すみません、降ります!

<バスを降りながら> どうもすみません。 (冬)

例(5)の日本語吹き替え版は韓国語の「감사합니다 (ありがとうございます)」が「どうもすみません」となっており、これはバスの出発に時間をかけたという「聞き手の負担」を気遣った表現と見られる。これに対し、韓国語では「依頼」を受け入れてくれた「聞き手の厚意」を優先させるため、「감사합니다 (ありがとうございます)」が用いられており、言語表現の選択時の着目の箇所が日本語と韓国語で異なっていることがわかる。

また、話し手の「依頼」に基づいていない相手の自発的な厚意による行為にもこのようなことが見られる。相手の自発的な厚意は「依頼」のように話し手が直接聞き手に負担をかけることではないので、一般的に「感謝」の場面と把握される。しかし、日本語では話し手のために聞き手が行っている行為に「聞き手の負担」が発生していることを気遣う場合、この負担に対して謝罪の「定型表現」が使用される可能性があり、「依頼」の受け入れのあとに見られるのと類似しているように考えられる。

(6) 置き忘れた物を届けにきてくれたキジュに

태영: 이걸 내 옷이랑 가방. 아, 고마워요. 설마 이거 때문에 온 거예요?

(テヨン: これ、私の服とかばん。あ、ありがとうございます。まさかこのために来てくれたんですか。)

→ **日本語吹き替え版**: やだ、これ私のかばん。どうもすみません。 (パ)

(7) 目上の人がお酒を注いでくれる

김차장: 한잔 합시다. <따라준다>

(金次長: 一杯どうぞ。<注ぐ>)

승룡 : 아유, 고맙습니다.

(スンリョン : うわ、ありがとうございます。)

→ 日本語吹き替え版 : うわ、すみません。

(冬)

例(6)は置き忘れて相手に手数をかけたこと、例(7)は気を遣って接する相手（目上の人）のお酒を注いでくれる行為が「聞き手の負担」と把握される。

親しい関係より疎の関係、目下より目上の人に気を遣うため、そのような関係の相手の自発的な厚意による行為は相手に気を遣わせたこととみなされる。その結果、どんなに小さなことであっても相手に何かをしてもらったということが「聞き手の負担」として把握され、「すみません」が用いられるのである。

このように、日本語では実際に相手に負担をかけるようなものをはじめ、聞き手の自発的な厚意に基づく行為まで「聞き手の負担」として認識される。実際に聞き手が負担を感じているかどうかとは関係なく、話し手が「聞き手の負担」を想定するようなものまでもが含まれている。一方、韓国語では「聞き手の負担」と「聞き手の厚意」が、比較的はっきり分かれており、「依頼」の受け入れの後や相手の自発的な厚意に基づく行為に謝罪の「定型表現」を使用することはそれほど一般的なものではないと考えられる。

4-2-3 聞き手の領域に関わるもの

「聞き手の領域」に関わるものとは、聞き手を取り巻く空間、時間、ある状態と関係し、その出入りにあたって謝罪の「定型表現」が使われる場合のことで、資料の例を以下のように区分し、考察する。

- ① 入室、退室、別れの時の「挨拶」
- ② 声による「聞き手の領域」への入り込みとして把握される「呼びかけ」
- ③ 聞き手が何かに取り組んでいるある状態への「割り込み」及び聞き手と話し手が共同作業や会話などを行う際に形成される共有領域からの「一時的な離脱」
- ④ 共有空間の形成にあたってしかるべき状態以下であることへの「気遣い」

4-2-3-1 入室、退室、別れの時の「挨拶」

入室、退室、別れの時に「挨拶」として使われる「失礼します、失礼しました」は、今回の資料では日本語20例に対し、韓国語では入室時の「실례합니다 (失礼します)」と別れの時の「실례할게요 (失礼します)」の2例のみである。

特に、日本語では疎の関係または目上の人との別れの際の挨拶のほとんどが「(これで)失礼します」となっているのに対し、韓国語ではそれぞれ「이만 가 볼게요 (じゃ、帰ります)」、그만 돌아가겠습니다 (もう帰ります)、「들어가 볼게요 (帰ります)」「안녕히 계세요 (さようなら)」などの言語表現となっており、多様な表現が見られる。

韓国語の「실례합니다、실례하겠습니다 (失礼します)／실례했습니다 (失礼しました)」は

言語表現としては存在しているが、「定型表現」以外の多様な表現のバリエーションがあるため、日本語ほど幅広く使われないことがわかる。

4-2-3-2 「呼びかけ」

「呼びかけ」の使用例は日本語7例、韓国語1例であり、例(8)は相手の家の前で在宅を確かめる場合に韓国語の「실례합니다! (失礼します)」が呼びかけとして使われている例である。

(8) 知り合いの家の前で

승혁: 실례합니다! 계세요? 아무도 안 계세요?

(スンヒョク: 失礼します! 誰かいらっしゃいますか? 誰もいらっしゃらないですか?)

→ **日本語吹き替え版**: ごめんください。 こんにちは。誰かいませんか。 (パ)

例(8)は相手の居住空間に実際に入り込んでいるわけではないが、声による入り込みが行われている点で謝罪の「定型表現」の一つの形式が充てられているように考えられる。両言語とも例(8)のような場面で「呼びかけ」に謝罪の「定型表現」が使われるという点では同じであるが、日本語では店の人や知らない人に呼びかけるときも「すみません」が幅広く使える。疎の関係では「呼びかけ」を例(8)のように聞き手の身体を取り巻く空間への入り込みと見なすことで、「すみません」が使われているようにも考えられる。

一方、韓国語では店の人や知らない人に呼びかけるときに謝罪の「定型表現」はそれほど使われない。その理由について生越では主に親族名称¹⁾の多用を挙げているが、それ以外に例(8)のような空間的な捉え方に基づいたものもある。

(9) 別れの挨拶をしてから

채린: 너, 그거 민형 씨 옷 아니니?

(チェリン: それ、ミニョンさんの上着じゃない?)

유진: 아, 맞다. 잠깐만. <민형을 향해> 저기요! 이거 옷이요.

(ユジン: あ、そうだ。待ってて。<ミニョンに向かって> あそこよ! この上着。

→ **日本語吹き替え版**: あ、そうだ。待ってて。<ミニョンに向かって> すみません!

민형: 추운데 그냥 입고 가요.

(チェリンの恋人のミニョン: 寒いからそのまま着ていてください。 (冬)

韓国語では話し手を含む周辺の空間を「여기 (ここ)」で示し、それ以外の話し手から離れた空間を「저기 (あそこ)」で示す把握の仕方から場所を直接指す「여기요! (ここだよ! ここよ!)」または「저기요! (あそこよ!)」が「呼びかけ」として慣用化されている。捉えかたの違いはあるものの、両言語とも疎の関係の人に対する「呼びかけ」が話し手と聞き手の領域

のことを考えた上での表現であることは興味深い。

4-2-3-3 聞き手のある状態への「割り込み」および共有領域からの「一時的な離脱」

聞き手が工作中、会話中、食事中など何かに取り組んでいるある状態への「割り込み」は日本語11例、韓国語5例、逆に聞き手と話し手が共同作業や会話などを行う際に形成される共有領域からの「一時的な離脱」は日本語11例、韓国語3例であり、日本語の方が韓国語より目立って多い。

例(10)(11)は疎の関係の目上の人、お客さんに対して謝罪の「定型表現」が丁寧に使用されている例であるが、このように「割り込み」に対して両言語とも謝罪の「定型表現」で聞き手の了解を得る点では同じである。

- (10) 母親同士で議論になっているところに割り込む場面

민형 : 말씀하시는데 실례합니다.

(ミニョン : お話し中、失礼します。)

→ **日本語吹き替え版** : お話し中、すみません (冬)

- (11) 相談窓口の職員が客と話しているところに割り込む場面

기주 : 저, 잠깐 실례 좀 하겠습니다.

(キジュ : あのー、ちょっと失礼します。)

→ **日本語吹き替え版** : すみません。お客様ちょっと失礼します。 (バ)

ところが、親しい関係の場合、韓国語では例(12)のように謝罪の「定型表現」が使われないこともある。

- (12) ソンミの部屋。ソンミとソンミの父親が深刻な話をしている。そこにソンミの父親の友人であるウジンの母親が入ってくる

선미아버지 : 아, 아직 안 갔어?

(ソンミの父親 : あ、まだいたのか?)

우진어머니 : 응, 저기... 나 선미하고 좀 하고 싶은 얘기 있는데.

(ウジンの母親 : うん、あのー 私、ソンミとちょっと話したいことがあるんだけど。)

→ **日本語吹き替え版** : ごめんね。よかったらちょっとソンミと話がしたいんだけど。

선미아버지 : 그래?

(ソンミの父親 : そうか。〈ソンミを一度見つめて出て行く〉) (イ)

例(12)は、部屋でソンミと父親が話をしているところにウジンの母親が入ってくる場面であるが、不意の入り込みや話し中の一方的な割り込みにならないように、「저기... (あのー)」と言

いよどんで遠慮の気持ちを示している。また、聞き手に席を外してもらいたいという願いが「^나선미하고 ^{조금} ^하고 ^{싶은} ^{얘기} ^{있는데}（私、ソンミとちょっと話したいことがあるんだけど）」のみの発話で行われており、聞き手の全面的な了解を前提にした上での会話と見られる。

一方、例(12)の日本語吹き替え版は「^{저기}…（あのー）」の部分が「ごめんね」となっており、続きの台詞には韓国語原語版には見られない「よかったら」という聞き手の了解を求める表現がある。日本語では聞き手の全面的な了解が期待される親しい関係でも一方的な割り込みや押し付けにならないよう言語表現面で明示的に示す必要があり、韓国語との相違が見られる。

また、このようなことは話し手と聞き手の共有領域からの「一時的な離脱」でも類似している。

- (13) 友達のチェリンと話をしている途中、携帯に出る

상혁：잠깐만.

（サンヒョク：ちょっと。）

→ **日本語吹き替え版**：ちよっとごめん。 (冬)

- (14) 従弟のスンヒョクと話をしている途中、携帯が鳴る

기주：잠깐만.

ミニョン：ちよっと。

→ **日本語吹き替え版**：ちよっとすまん。 (バ)

例(13)(14)は親しい友達、甥との話の途中、電話に出るための「一時的な離脱」の場面である。日本語吹き替え版では「ちよっとごめん」「ちよっとすまん」になっているが、韓国語では「^{잠깐만} 잠깐만」という表現が使われている。「^{잠깐만} 잠깐만」は直訳すると「少しの間だけ」、「ちよっと」にあたる。韓国語でも疎の関係や目上の人など気を使う相手には「^{죄송합니다} 죄송합니다（申し訳ありません）」などの謝罪の「定型表現」で聞き手の了解を得ることはあるが、例(13)(14)のように親しい関係ではそれほど使われない。

以上のように、日本語では親しい関係であっても、聞き手のある状態への「割り込み」及び共有領域からの「一時的な離脱」にあたって謝罪の「定型表現」を持って対応するのである。これに対して、韓国語では「定型表現」を持って明確に対応するのは疎の関係や目上の人など気を遣う相手であり、親しい関係で「定型表現」を持って対応することは一定の距離感を感じさせることになりかねない。そのため、別の言語表現による配慮または聞き手の全面的な了解を前提にした会話が行われていると考えられる。

4-2-3-4 共有空間の形成にあたってしかるべき状態以下であることへの「気遣い」

ここでは共有空間を形成するにあたって快適な空間の提供が十分に行われず、しかるべき状態以下であることに対して謝罪の「定型表現」が用いられる例について考察する。

例(15)は荷物と部屋の片づけでバタバタしている社内の状態で相手に快適な空間の提供を十分に行うことができないため、その理由や相手への配慮として謝罪の「定型表現」による「気遣い」の発話が見られる例である。

(15) 金次長は事務室の片付けを指示していたところ、訪れてきたユジンに気づく

김차장 : 아, 정유진 씨!

(金次長 : あ、ユジンさん!)

유진 : 김차장 님!

(ユジン : 金次長!)

김차장 : 어휴, 사무실이 복잡하지요? 예? 우리 이사님 방 좀 세팅하느라구요.

(金次長 : ああ、事務室バタバタしてるでしょう。理事の部屋をセッティングしてて。)

→ 日本語吹き替え版 : 悪いね。こんなバタバタしてて。今理事の荷物が来ちゃって。)

유진 : 아, 그 새로 오셨다는 분이요?

(あ、あの新しく来られた方のことですか?)

(冬)

韓国語では「^{사무실이} 복잡^하지요? (事務室がバタバタしてるでしょう? / 落ち着かないでしょう?)」のように、聞き手にとって好ましくない状態を話し手が十分理解していることを表すことによって相手の了解を得ている。これに対し、日本語吹き替え版ではバタバタしているという事実について述べるだけでは不十分で、「悪いね」と謝罪の「定型表現」で聞き手に申し訳ないと思うことを表している。

このように、共有空間の形成にあたってしかるべき状態以下であることを認め、相手を気遣う表現をする点では日本語でも韓国語でも同じであるが、日本語では事実について述べるだけでは相手を配慮する気遣いを十分表しきれないという恐れがあり、謝罪の「定型表現」を持って明確に表す必要があると考えられる。

5. 終わりに

以上、日本語と韓国語における謝罪の「定型表現」の特徴をまとめて、その特徴を考えると、日本語も韓国語も謝罪の「定型表現」は「聞き手が被る物理的・心理的な損害や迷惑がある場合」の使用が多いという点では同じである。ところが、韓国語の謝罪の「定型表現」は主に「聞き手が被る物理的・心理的な損害や迷惑がある場合」に用いられる。また、親しい関係の人、「聞き手が被る物理的・心理的な損害や迷惑」の内容の面では程度の軽い場合、韓国語では謝罪の「定型表現」が見られないケースもあるのに対し、日本語では親しい関係でも「聞き手が被る物理的・心理的な損害や迷惑」の内容の程度に関係なく、「定型表現」が第一発話の存在とし

て意味を持つことがわかった。

一方、「聞き手が被る物理的・心理的な損害や迷惑がない場合」において日本語の謝罪の「定型表現」の使用は韓国語より著しく多いが、その理由は先行研究で述べられている「呼びかけ」「挨拶」「感謝」の違いによるものだけではない。謝罪の「定型表現」が使える両言語共通の状況であっても、韓国語では親疎関係が関わることによって「定型表現」が使用されない場合がある。親しい関係という聞き手との良好な関係が保たれているからこそ「定型表現」は特に必要とされないと言えよう。これに対し、日本語では聞き手との良好な関係の維持のために謝罪の「定型表現」が使われており、親しい関係であっても「定型表現」が多用されることは変わらない。つまり、良好な関係が保たれているからこそ「定型表現」が必要とされない韓国語と、良好な関係の維持のために「定型表現」が必要とされる日本語との間に謝罪の「定型表現」の存在が持つ重要度は当然異なり、その使用に違いのあることがわかった。

本稿では謝罪の「定型表現」を取り上げ、日本語と韓国語の大まかな特徴について考察したが、今後の課題として挙げられるのは資料の増加である。今後、本稿で得られた使用状況の相違に関する意識調査を進め、日本語と韓国語における謝罪の「定型表現」の位置づけの問題についてさらに考察を深めていく必要がある。

注

- 1) 他人に対し、親族名称を使って呼びかけること。若い女性店員に対して「^{오빠님} (お姉さん)」、お年寄りに対して「^{할머니} (おばあさん)、^{할아버지} (おじいさん)」と呼ぶことなどが考えられる。親族名称以外に、学生に見える目下の人に対して「^{학생} (学生)」と呼びかけるなど身分や職階を擬似判断して使う場合もある。

参考文献

- 池田理恵子 (1993) 「謝罪の対照研究 — 日米対照研究 — face という視点からの一考察 —」『日本語学』12巻12号 明治書院 pp.13-21
- 任榮哲・井出理咲子 (2004) 『箸とチョッカラク — ことばと文化の日韓比較 —』大修館書店
- 小川治子 (1993) 「「すみません」の社会言語学的考察」『言語文化と日本語教育』第6号 お茶の水女子大学日本語文化学会研究会 pp.36-46
- 沖裕子 (1994) 「方言談話にみる感謝表現の成立 — 発話受話行為の分析 —」『日本語学』13巻7号 明治書院 pp.28-37
- 奥津敬一郎・沼田善子 (1985) 「日・朝・中・英のあいさつ言葉」『日本語学』8巻4号 明治書院 pp.53-69
- 生越まり子 (1993) 「謝罪の対照研究 — 日朝対照研究 —」『日本語学』12巻12号 明治書院 pp.29-38
- 尾崎喜光 (2006) 「依頼・勧めに対する断りにおける配慮の表現」『言語行動における「配慮」の諸相』くろしお出版 pp.89-114
- 呉善花 (1991) 『続・スカートの風』角川文庫
- 甲斐睦朗 (1993) 「企業小説にみる謝罪表現」『日本語学』12巻12号 明治書院 pp.75-83
- 神尾昭雄 (1990) 『情報のなわ張り理論』大修館書店

- 木内明 (1998) 『今すぐ話せる韓国語』 東進ブックス
- 熊谷智子 (1993) 「研究対象としての謝罪—いくつかの切り口について—」『日本語学』12巻12号 明治書院 pp.4-12
- 熊取谷哲夫 (1988) 「発話行為理論と談話行動から見た日本語の「詫び」と「感謝」」萩野網男編『広島大学教育学部紀要』第2部 第37号 pp.223-234
- 熊取谷哲夫 (1990) 「日本語における「感謝」の談話構造と表現配列」『広島大学日本語教育学科紀要』1号 広島大学教育学部日本語教育科 pp.61-67
- 熊取谷哲夫 (1992) 「日本語の「感謝」における表現交替現象とその社会言語学的モデル」『表現研究』52号 表現学会 pp.36-44
- 熊取谷哲夫 (1993) 「発話行為対照研究のための統合的アプローチ—日英語の「詫び」を例に—」『日本語教育』79号 日本語教育学会 pp.26-40
- 国立国語研究所 (2002) 『親「ことば」シリーズ15 日本語を外から眺める』
- 斉藤明美 (2005) 『ことばと文化の日韓比較』世界思想社
- 佐久間勝彦 (1983) 「感謝と詫び」水谷修編『話し言葉の表現』筑摩書房
- 鈴木 陸 (1989) 「聞き手の私的領域と丁寧表現」『日本語学』8巻2号
- 中田智子 (1989) 「発話行為としての陳謝と感謝—日英比較—」『日本語教育』68号 日本語教育学会 pp.191-203
- 中道真木男・土井真美 (1993) 「日本語教育における謝罪の扱い」『日本語学』12巻12号 明治書院 pp.66-74
- 三宅和子 (1991) 「「感謝」と「詫び」にみるイギリス人とアメリカ人の言語行動」『言語行動報告2』pp.71-83
- 三宅和子 (1993) 「「詫び」以外で使われている詫び表現—その多用化の実態とウチ・ソト・ヨソの関係—」『日本語教育』82号 日本語教育学会 pp.134-146
- 堀江インカピロム・プリヤー (1993) 「謝罪の対照研究—日タイ対照研究」『日本語学』12巻12号 明治書院 pp.22-28
- 渡辺吉谿・鈴木孝夫 (1981) 『朝鮮語のすすめ』講談社現代新書
- Coulmas, F. (1981) Poison to your soul: Thanks and Apologies Contrastively viewed. *Conversational Routine*. The Hauge: Mouton. 69-91.
- Ide, Risako (1998) 'Sorry for your kindness': Japanese interactional ritual in public discourse. *Journal of Pragmatics* 29. 509-529

資料に使われている韓国対訳テレビドラマ (下線は本稿での略称を示す)

- 「イヴのすべて」2002年、1～10話
- 「冬のソナタ」2002年、1～11話
- 「パリの恋人」2005年、1～8話